



榎原チャレンジ！

下郷町立榎原小学校
学校だより No.43
令和3年 1月25日
文責:校長 酒井 健

◇コロナウイルス感染防止・・・「対岸の火事」ではありません。

1月24日付けの新聞に「家庭内感染 県内急拡大」という見出しがありました。県内拡大ではなく、県内急拡大であります。南会津域内の感染者が、急増している今、私たちが必ず行動にうつさないといけないことは、以下の「感染症予防の3原則」であります。何とぞよろしくお願いいたします。

- ① 感染源を絶つ [発熱・風邪症状のある者の自宅休養、医療機関への受診の徹底]
- ② 感染経路を絶つ [手洗い・うがい、マスク着用、アルコール消毒 等]
- ③ 抵抗力を高める [十分な休養・睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事、規則正しい生活習慣 等]

家庭内感染が拡大しているのは、何も東京都など緊急事態宣言が発令されている地域だけではありません。福島県においても、私たちが住んでいる南会津域内でも同じです。福島県では、今、「緊急対策期間」として、全県民に不要不急の外出自粛への協力を求めています。このような中で、学校とご家庭とで協力して進めていかないといけないことは、次の通りです。

ご協力、お願いいたします。



■健康観察、登校の判断

- 毎朝、登校前に検温及び風邪症状の確認を必ずしてください。検温記録表も必ず提出してください。また、同居している家族にも毎朝の健康状態の確認をお願いいたします。
- お子様に発熱や風邪症状がある場合は、登校させず、必ず医療機関で受診をさせ、自宅で休養してください。また、その際は、学校への連絡をお願いいたします。
- 同居家族が濃厚接触者に特定された場合、お子様又は同居の家族が濃厚接触者ではないが医師や保健所の指示等でPCR検査等を受けるとなった場合は、いずれもPCR検査等の結果が判明するまで、登校を控えてください。(「出席停止」扱いとなります)

■休日や学校外の活動

- 学校外でも、換気が悪く人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。
- 緊急事態宣言対象地域、それ以外においても、不要不急の外出は自粛してください。
- 仲のよい友人同士の家間での行き来を控えるとともに、家族ぐるみの交流による接触をなるべく控えてください。

■家庭から学校への連絡

- お子様が新型コロナウイルス感染症に感染した、濃厚接触者に特定された、同居している家族が感染した・・・等、コロナ感染に関する事案が発生した場合は、間をおかず、すぐに学校にもご連絡をお願いいたします。(学校 TEL0241-67-4000)

学校では、連絡をいただいですぐに、対策本部会議を開催し、教育委員会のご指導のもと対応にあたります。ご連絡が早ければ早いほど、対策の効果が上がります。

校長のひとりごと

今回の学校だよりは「保護者の皆様へのご願い」だけになってしまい申し訳ありません。ただ、これだけ身近で感染者が増えている状況下であります。ご協力よろしくお願いいたします。先週、職員に「コロナウイルス感染対策指導資料」というものを作成・配付して説明をしました。そこには、今後の子どもたちへの指導で大切にしていくことをまとめました。冊子の一番最初に私の気持ちを書かせていただきました。裏面をご覧ください。

はじめに

中国武漢市に滞在していた方が、令和2年1月6日に帰国し、1月15日に、日本国内で検知された新型コロナウイルス感染症第一例目となりました。

それから一年が経過した今、コロナウイルスは、日本中、世界中で猛威を振るい、世界での感染者数は約9,500万人、死亡者数は203万人に達しています。日本での感染者数は33.1万人、福島県では、1,469人(2021.1.19現在)となっており、この数字は、さらに拡大していく状況であります。

学校において、振り返ってみますと、既に1年以上もマスクの生活を強いられています。子どもたちの楽しみにしていた行事は、延期・縮小・中止となっしまい、毎日、手洗い・うがい、マスク着用、アルコール消毒、換気、グループをつくらず無言の給食・・・等の制約を受けながら、献身的に学校に登校しています。

今から10年ほど前に、東日本大震災が発生し、今までに経験したことのない激しい揺れと想定外の津波が日本・・・特に東北地方3県(福島・宮城・岩手)を襲いました。災害はそれだけに留まらず、福島第一原子力発電所の事故により、1号機・3号機・4号機がたて続けに水素爆発を引き起こし、多くの住民の方々が生まれ故郷を離れ、避難生活を余儀なくされました。今なお、地元に戻る事ができない多くの方々がいます。

この原発事故をきっかけとして、私たちの生活は大きく変わりました。校庭の表土を削る、外では遊べない、肌を出してはいけない、マスク着用、風の強い日は窓を開けてはいけない、屋外のプールは使用できない・・・一気に学校生活は変わりました。その後、学校では「放射線教育」が始まり、まずは、放射線とは何なのか、どうすれば安全に自分の身を守ることができるのかを子どもたちは一つ一つ学んできました。

これらの一連の流れを目の当たりにしてきた私は、今の状況でも同じことが言えるのではないかと思い始めました。

「感染しないようにマスクを付ける」「感染しないように手洗い・うがいをする」・・・行動面だけの指導では、子どもたちは「やらされ感」を増幅させ、「自分の身は自分で守る」という災害教育の鉄則から離れてしまっているのではないのでしょうか。コロナウイルスとは何？どうして感染するの？感染しないためには何が必要なの？学校では、家庭では、どんなことに気を付けなければいけないの？・・・子どもたちがコロナウイルスを理解し、感染と向き合い、正しく怖がり、感染対策を自ら行っていく・・・そのような姿こそが、感染拡大に歯止めが効かない今必要である、そう考えています。

令和3年1月21日

下郷町立榎原小学校 校長 酒井 健